

京都大学	博士（ 医 学）	氏 名	中 川 義 章
論文題目	A New Accounting System for Financial Balance Based on Personnel Cost and New Indicators for Management Efficiency in a Hospital. （人件費に基づく新たな原価計算システムの構築と経営的視点に立った病院評価指標の作成）		
（論文内容の要旨）			
病院を効率的に運営し、将来の経営戦略を策定するため病院経営者が日常的に用いるのは財務諸表を中心に医業収益、医業支出あるいは診療単価や診療材料費等である。その他に病院及び病棟の運営状況を把握するため患者数、病床稼働率、平均在院日数、病床回転数といった指標を用いている。最近ではこれら指標を用いて他の病院とベンチマーキング等も行われている。しかし経営的な視点から見ると、これらの指標は必ずしも医療の効率性を表現するものではない。一方で ABC(Activity-Based Costing)法などを用いて原価計算も試みられているが、計算に必要なデータ収集にかかる労力、時間等を考慮すると病床数の多い病院では利用が困難とされている。さらに DPC が導入され、医業収入の算定は簡素化されたが、包括部門（約 80%）と出来高部門（約 20%）が混在するため原価計算をより複雑にしている。			
今回の研究では			
1）DPC 制度により義務づけられた D,E,F ファイルを用い、医業収益の分析が可能なシステムを開発した。			
2）医業支出の最も大きな割合(50%以上う)を占める人件費の按分方法を病棟部門（あるいは診療科部門）、中央診療部門、事務系部門に分けてそれぞれ按分する方法を独自に考案した。			
3）原価計算を行う際に最も問題となる固定費（減価償却費、病院運営経費）を2）で算出した人件費をコストドライバーとして按分するシステムを開発し、最終的に原価計算システムの開発を行った。			
4）経営的な視点から病院あるいは診療科の運営の効率性を評価する目的で以下の 2 つの指標を考案した。			
RMP：Ratio of marginal profit after personnel cost per personnel cost) 人件費一円当りの（限界利益・人件費）額を示す。			
RIP：Ratio of investment (indirect cost) per personnel cost) 人件費一円当たりの投資額（間接費用）を示す。			
5）さらにこれらの原価計算システム並びに指標を用いて(独)国立病院機構病院（NHO）144 病院、及び急性期医療を提供する一市中病院の各診療科別の分析を行った。			
以上の結果			
1） DPC 分類群毎(あるいは患者一人単位)における原価計算が可能となり、DPC 期間毎(期間 1－4)における原価計算も可能となった。さらに診療科毎の医業収益と医業支出が算出可能となった。			

2) 損益分岐点を示す BEP (break-even point; RMP=RIP、RMP>RIP では黒字、RMP<RIP では赤字を示す) および BER (break-even ratio) が RMP を x 軸、RIP を y 軸とするグラフ上に表現可能であることが判明し、NHO のような病院群において病院間の評価が行えた。 3) RMP－RIP は人件費に対する営業利益率（＝人件費対医業利益率に相当＝operating profit per one dollar of personnel cost; OPP)を示し、診断群分類毎、各診療科の医療効率の評価が可能となった。 4) BEP, BER に加え OPP が同一のシート；2)に示すグラフ上に表示可能となり、各病院あるいは診療科の効率性の目視化が可能となった。
(論文審査の結果の要旨) 本論文は1) 新たな原価計算システムの開発、2) 新たな指標の考案といった2つの内容から成り立っている。原価計算システムの開発では従来の計算手法と異なり、患者数と診療点数をコストドライバーとして人件費の配賦を行い、各個人に配賦された人件費をコストドライバーとして間接経費を算出する新しい配賦ルールを考案し、簡便な原価計算法の開発に成功している。その結果患者別に原価計算が可能となり、これらを積算することで DPC 期間毎(期間 1－4)の原価計算も可能となった。2) 新たな指標では RMP：人件費対人件費排除後限界利益率、 RIP：人件費対間接経費（投資額）率、OPP：人件費対医業利益率といった新しい視点から3つの指標を考案している。RMP と RIP の差である OPP は医業利益を示し、経営的な視点から病院の運営の効率性の評価を可能とするものである。さらに RMP、RIP を用いて損益分岐点ライン、損益分岐点比率を同一のグラフ上に示すことが可能となり、他病院とのベンチマーキングとしても有用と考えられた。 以上の研究は新しい原価計算法の開発により、従来の計算方法とは異なる視点での病院経営分析を可能とするものであり、新しく考案された指標は経営的な視点から医療の効率性の評価を可能とするもので、現代の複雑化している医療現場における効率性の改善に貢献し、医療の発展に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、平成 22 年 1 月 25 日実施の論文内容とそれに関連した諮問を受け、合格と認められたものである。
要旨公開可能日： 年 月 日以降